

1. はじめに

平成16年3月15日から23日まで、病院建築に係わる各種様々な部門におけるプロフェッショナルから成る調査団と共に、米国フロリダ州タンパで開催された全米病院建築協会（ASHE）が主催する「医療・福祉における施設計画・設計・建築に関する展示会」に参加し、その後、フロリダ州やテキサス州における全米を代表する医療施設を訪問しました。

遅くなりましたが、以下に、今回の施設調査全体の概要と、私が調査を担当しましたH.LEE MOFFITT CANCER CENTER AND RESEARCH INSTITUTEについてご報告させていただきます。

2. 2004ASHE参加と米国ヘルスケア施設調査の趣旨

以前は、海外の医療施設を視察しても、“経済力”や“医療保険制度”、“医療システム”の違いから、我々とは関係のない、別世界のことと考え、“到底真似できないこと”として諦めていたことも多くあった。しかし今、我が国においても、医療環境や社会環境、経済環境、ライフスタイルの大きな変化の中で、遅ればせながらも、「患者本位の病院」としての患者に対する配慮、そして更には医療や病院体系のリストラクションの中で、「EBM(科学的根拠に基づく医療)」のための「EBD(科学的根拠に基づく設計)」による施設整備が急務となり、その先駆的な多くの事例をアメリカの病院に見ることができる。そしてこれらの事例には、医療の提供の仕方やヘルスケア全体の中での位置づけ、そして建築設計からインテリアや家具や備品の中までに、「患者サービスとは何か」を示唆してくれものが多く存在する。そこで、このような視点に注目した新しい医療施設の動向を視察調査することとした。

3. 訪問先

平成16年3月16日	ASHE-2004International Conference and Exhibition on Health Facility Planning Design and Construction (Tampa, FL)
3月18日(午前)	Tampa Children's Hospital at St. Joseph's (Tampa, FL)
(午後)	H. Lee Moffitt Cancer Center and Research Institute (Tampa, FL)
3月19日(午前)	Huebner Medical Center (San Antonio, TX)
(午後)	Warm Spring Rehabilitation Hospital (San Antonio, TX)



病院入口 敷地が広い為、電気自動車で移動



3月22日（午前）	Memorial Hermann Hospital (Houston TX)
（午後）	Tomball Regional Hospital (Houston TX)



4. H. Lee Moffit Cancer Center and Research Institute について



① 全体概要

H. Lee Moffit Cancer Center and Research Institute（以下：Moffitがんセンター）は、がんの予防と治療の貢献という使命を掲げて、1986年に非営利組織としてフロリダ州タンパにて開設された。開設の際の建築費用に、フロリダ州たばこ税10億ドルが投資され、負債なしで開設した、全米でも珍しい事例として注目を集めた。



Moffitがんセンターは、フロリダ州において唯一、全米がん機関によって、“総合がんセンター”という名称を与えられた施設であり、この名称はがんセンターに与えられる最高の名誉である。この名誉を得ることにより、Moffitがんセンターは全米で38施設にしか存在しない選良されたがんセンターの仲間入りを果たすことに成功した施設である。



② 施設の特徴

病床数	162床
手術室数	12室
年間外来患者数	200,000人/年
年間入院患者数	6,300人/年
平均在院日数	5.7日
職員数（医師含む）	2,100人
駐車台数	1,600台



Moffit がんセンターは、2003 年の夏、3,500,000 平方フィート（1 フィート=30.48 cm）という広大な土地に、今まで以上の患者数獲得や患者サービス向上を目的に、外来スペースと研究施設を当時の 2 倍にするための“タワープロジェクト計画”を実施した。

その効果もあり、Moffit がんセンターには、全米各地より年間約 200,000 人の外来患者が受診しており、入院患者においては年間約 6,300 人が入院している。平均在院日数においては、5.7 日と、アメリカの医療制度特有ではあるが、日本の病院における平均在院日数が 20 日前後であることを考えると、非常に短いことがわかる。これは、Moffit がんセンター近隣に、リハビリテーション機能に特化した、所謂慢性期病院が数多く存在し、Moffit がんセンターで治療を終えた患者を受け入れていることによって、可能となる数字である。

今回の視察を通じて、建築の観点や患者サービスの観点から見た病院についても、日本の病院では見られないカラフルな壁の色の使い方や、小児科病棟における小児の精神面に配慮したアメニティに対する工夫、患者プライバシーを重視した個室の受付スペースの設置など、非常に参考となった。また、病院のソフト面に係わることの多い私としては、Moffit がんセンターを始めとする各病院の平均在院日数が 10 日以下であり、急性期病院の周辺には、リハビリを専門としたリハビリテーション病院や老人福祉施設が多数存在することに感心した。平均在院日数短縮については、日本の医療業界においても注目されており、今後の動向が気になるところではあるが、アメリカの 10 日以下という平均在院日数の実現を支えているのは、やはり、リハビリテーション病院や老人福祉施設などの後方支援病院の存在であることがわかった。

